

みっしょん通信

2020年11月発行 No.3

みっしょん通信第3号をお届けいたします。今回のテーマは「エネルギー問題」です。エコロジーに配慮した修道生活が営まれている「聖母訪問会三浦修道院」訪問の報告、環境問題を取り上げたフランシスコ教皇による『回勅 ラウダート・シ』の第1章「ともに暮らす家に起きていること」の要約を掲載しました。また、「洗礼堅信受領年齢データ」の分析を経て、現在宣教委員会によって検討されているプログラム案についての報告もあります。どうぞ一読ください。

宣教主事 司祭 サムエル 北澤洋

聖母訪問会三浦修道院と『ラウダート・シ』

ステパノ 小林 裕 (返子聖ペテロ教会信徒)

2019年11月9日、横浜教区宣教委員会のメンバー5名(司祭2名、信徒3名)で、三浦半島にあるカトリック聖母訪問会三浦修道院に見学に行ってきました。聖母訪問会は1915年フランス人宣教師アルベルト・ブルトン師によって、当時渡米していた4人の日本人シスターを中心にサンフランシスコで創立された歴史ある修道会です。その名称は、懐胎したエリザベトのもとに自らも救い主を宿した聖母マリアが訪問したことに由来しています。現在の本部は鎌倉にあるモンタナ修道院ですが、国内各地に修道院、共同体があります。

また海外では、私が2006～2010年まで東ティモール医療友の会(現在の名称はAFMET)の一員として滞在した、東ティモール民主共和国にも聖母訪問会の修道院があります。私がいた村から車で45分ほどさらに奥地に入った、ラウテン県メハラ村にあるメハラ修道院です。その村でシスター達は毎日村の中を巡回し、病人の家や一人暮らしの高齢者の家を訪問したり、村の子供たちに歌を教えたりしていました。メハラ修道院はへき地の村に建てられていたので、本当の意味でエコロジーを考慮した修道院でした。



電気は来ていなかったのが太陽光発電、井戸はありましたが雨水をドラム缶に貯めて畑の水やりに使っていました。日本食が恋しくなると、同僚の日本人スタッフと車でメハラ修道院に行き、日本人シスター手作りの日本食をご馳走になったことを、昨日の出来事のように思い出します。

さて今回の聖母訪問会三浦修道院の見学は、2019年5月に行われた日本聖公会主催「原発のない世界を求める国際協議会」で採択された声明文の中にある「各教区に自然エネルギーによるモデル教会をつくり、方向性を指し示すこと」を受け、入江主教様から教区宣教委員会に「エコロジーを